

学生と教員の見方



「アビールポイント」
サッカー観戦とユニフ
ォーム巡りが趣味です。
特に古着屋などに行き目
当てのユニフォームを探
すのが楽しいです。

【学生の見方&考え方】

(2年 樫野馨)

東京都千代田区は2020年、「千代田区景観まちづくり計画」を策定した。

建築物の外観をそろえるだけの施策ではなく、地域の歴史や土地の利用構造、暮らしの積み重ねといった「景観の多層構造」を丁寧に読み取り、これを景観形成に生かしていく目標が立てられている。区全域が3つの地域に分けられ、それぞれに景観形成の方針と基準が定められている。

実際に3つの地域を視察した。美観地域である丸の内は、赤レンガ駅舎をはじめとする歴史的建築物と超

都市計画と不動産②

高層オフィスビルの現代建築、さらに街路や広場も一体となり、統一感のある洗練された景観が形成されていた。麹町地域は比較的新しい商業ビルと中高層マンションが混在しているが、極端な派手さは抑えられ、住居系と商業系が調和する景観が形成されている。神田地域は、日

景観を視覚的整合性の問題としてではなく、都市のアイデンティティを構成する文化的資源として捉え、景観まちづくりを進めていくことがよく理解できた。

景観を視覚的整合性の問題としてではなく、都市の住民、事業者の協働が常に保たれている状態であることも、今後の景観まちづくりの方向性として重要だと考える。

千代田区景観まちづくりの現状と初志

地域の「らしさ」捉えた景色

本橋をはじめとする昭和レトロな建造物と近年の再開発ビルが混在する現代的な景観に、「時間の重なり」や「地域文脈の継承」がもたらす魅力が視覚的に現れている面白さを感じた。

【教員による展開】

(小杉学教授)

景観というと、絵画のような「美しい風景」を期待しがちである。実際に、我が国の近代都市計画は、暮らしの安全性や快適性より、

も、「美観」すなわち西欧風の整然とした町並みを整備して国の威信を内外に示そうとすることから始まった。これに対抗して、「風致」すなわち自然や寺社仏閣などの歴史的建造物の美しさを評価する動きも生まれた。美観地区や風致地区の規制は戦前からあるが、それは一部の特別な地域で行われてきた。

一方、「景観」は、特別な地域の「美しい風景」だけを指してはいいない。「景観」とは「地域」+「風景」のことである。「風景」は目に見える景色であるが、「景観」はその地域の雰囲気や個性をより意識的に捉えた景色とされる。そして現代では、「生活景」と呼ばれる、地域の歴史や文化、人々の暮らしや経済活動などが複合的に影響し合っている。

形成される、日常生活の営みが色濃く反映された景観が重視されている。樫野さんが神田地区で魅力を感じた複雑で多層的な景観は、まさに生活景といえよう。

2004年制定の景観法は、「良好な景観」の整備と保全を目的としている。特別な地域でなくとも、景観形成のための規制や誘導が行えるようになった。そこでは、何を「良好」と捉えるかが重要となる。それは地域の特性によって、そして何のためか、誰のためかによって変わってくる。

だからこそ、行政、住民、事業者といった、その地域に関わる人々の参加と協働による「景観まちづくり」が欠かせない。

「景観をつくる」ことと「地域をつくる」ことは深く融合し、相互浸透関係にある。